

# 学生・校友・ご父母が祝う



▲ グリークラブのリードで全員が校歌を斉唱した。小堺さんは「先生のモノマネをして、学食のおばちゃんにサービスしてもらったのが最初のギャグです」と笑いを誘い、大事な局面ごとに家族や周囲の先輩たちにアドバイスされたことが、現在につながっていると話した。

「卒業するとき進路が定まっていなかったが、不安はなかった。好きなことを見つけ、それをやり続けることが大切。就職氷河期と言われているが、たいへんな時代とは思わず、人と違いたい経験ができる気持ちで切り替えて楽しもう」と激励した。

日高理事長・学長は「小堺さんのお話から、

10月31日、生田キャンパスには、学生、卒業生、バス第一体育館で行われた「学生と共に130」加。

日本テレビ新アナウンサー・上田まりえさん(平21文)の司会で日高理事長・学長、卒業生でタレントの小堺一機さん(昭54経営)が、学生時代の思い出や現在の仕事に対する想い、学生へのメッセージを話した。

小堺さんは「先生のモノマネをして、学食のおばちゃんにサービスしてもらったのが最初のギャグです」と笑いを誘い、大事な局面ごとに家族や周囲の先輩たちにアドバイスされたことが、現在につながっていると話した。

「卒業するとき進路が定まっていなかったが、不安はなかった。好きなことを見つけ、それをやり続けることが大切。就職氷河期と言われているが、たいへんな時代とは思わず、人と違いたい経験ができる気持ちで切り替えて楽しもう」と激励した。

日高理事長・学長は「小堺さんのお話から、

## トークショー 日高理事長・学長と卒業生の小堺一機さん

10月31日

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

▲ 軽妙な話術で学生時代の思い出を語る小堺氏(右)に思わず笑いを誘われる日高学長(中央)と司会の上田さん

「先生のモノマネをして、学食のおばちゃんにサービスしてもらったのが最初のギャグです」と笑いを誘い、大事な局面ごとに家族や周囲の先輩たちにアドバイスされたことが、現在につながっていると話した。

「卒業するとき進路が定まっていなかったが、不安はなかった。好きなことを見つけ、それをやり続けることが大切。就職氷河期と言われているが、たいへんな時代とは思わず、人と違いたい経験ができる気持ちで切り替えて楽しもう」と激励した。

日高理事長・学長は「小堺さんのお話から、



▲ 会場に詰めかけた学生から、盛んな拍手が送られた



▲ 盛り上がった「専修大学検定」

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

▲ 全問正解の学生に上田さんがインタビュー

## ホームカミングデーに卒業生600人集う



▲ 歴史展示では、懐かしい都電「専修大学前」の停留所標識も

10月31日、生田キャンパスには、創立130年記念ホームカミングデー2009も行われ、約600人の卒業生、ご家族らが懐かしの母校に集った。

オープニングセレモニーでは、専大松戸高校和太鼓部が元気いっぱい、「跳子卓打ち太鼓」「ぶち合わせ太鼓」「繋がり」を披露し、日高理事長・学長、荒木副学長、甘竹校長、菅沼育友会長がくす玉を割り、華々しく開幕した。

10号館レストランで行われた創立130年記念

31日、生田キャンパスでは「創立130年記念ホームカミングデー2009」も行われ、約600人の卒業生、ご家族らが懐かしの母校に集った。

オープニングセレモニーでは、専大松戸高校和太鼓部が元気いっぱい、「跳子卓打ち太鼓」「ぶち合わせ太鼓」「繋がり」を披露し、日高理事長・学長、荒木副学長、甘竹校長、菅沼育友会長がくす玉を割り、華々しく開幕した。

10号館レストランで行われた創立130年記念



▲ くす玉が割られて華々しく開幕



▲ 田村氏による経営研究所の講演会



## 堂々たる合唱 目指し猛練習

「第九」祝祭合唱団

専修大学創立130年記念イベント「第九」特別演奏会に参加する祝祭合唱団のメンバーは12月5日(土)の本番を前に、指揮者の小森康弘氏、声楽家・古澤利人氏、ピアノの三枝美佐氏らの指導のもと、練習の追い込みを頑張っている。写真、同合唱団は、学生、ご父母、卒業生、教職員、多摩区民ら80人ほど。

メンバーの太田法子さん(文3、アルト)は1年前にドイツに短期留学した。「合唱経験はありますが、メロディーを聴くと気持ちが高まってきます。自立した歌唱が今後の課題」と話す。

バスの梶谷拓史さん(文3)は「第九」の勉強は高校生の時から始めました。歌は下手の横好きですが楽しい。同じパート仲間のアドバイスに助けられています。

本番は、武蔵野合唱団との共演で約2300人のコーラスとなり、専修大学フィルハーモニー管弦楽団と共に総勢3000人の堂々たる大演奏となる。11月14日には専修大学との合同練習が行われた。



▲ 卒業アルバムを手に当時を振り返る卒業生たち



▲ センディと記念撮影



▲ 専大松戸高生による和太鼓(オープニングセレモニー)



# オール専修で「創立130年」

## 「キラリと光る大学に」

### 盛大に記念式典と祝賀会

10月30日

9月16日に創立130年を迎えた専修大学の記念式典と祝賀会が10月30日、東京のホテルニューオータニで盛大に開催された。

## 鳩山首相もメッセージ

式典では、日高義博理事「日本私立学校振興・共済 渡したい」と語り、人間味 理事長の式辞のあと、事業団の石川明理事が祝 川端達夫文部科学相(清 辞、富山尚徳専務理事が 謝辞を述べた。



さつする 日高理事長・学長

ご父母ら1000 人が参加した祝賀 会であいさつに立 った日高理事長・ 紀夫首相から祝辞が寄せ られた。同首相の曾祖父 にあたる鳩山和夫元衆院 議長は、米国留学中に専



▲ 教職員、卒業生、ご父母ら1000人が参加した祝賀会会場

## 祝 辞



甘竹秀雄校友会会長、志茂田景樹氏、学徒出陣の際、本学の旗手を務めた川島東氏(昭19専政経)



乾杯の音頭をとる 菅沼堅吾校友会長



「ここらに知性の道 を究めつつ 我等が行 く手は光に充てり」創 立130年記念短歌を 披露する石黒吉次郎文 学部教授

修大学の前身・専修学校 の設置構想に加わり、設 立に大きく貢献した功勞 者であることが披露さ れ、130年という伝統 と実績のうえに専修大学 がさらに発展することを 期待する」と紹介された。 甘竹秀雄校友会会長、創 立者の建学の軌跡を小説 にした『蒼翼の獅子た ち』作者の志茂田景樹 氏、学徒出陣旗手の川島 東氏(昭19専政経)と祝辞 が続き、菅沼堅吾校友会 長の乾杯の音頭で開宴。



謝辞を述べる 荒木敏夫副学長

式典に先立ち「創立1 30年記念事業資金 募 金感謝状贈呈式」が行わ れ、14団体と23人に感謝 状が贈られた。



司会を務めた日高治学 さん(平11経営、NH K横浜放送局)

会を盛り上げた。荒木敏 夫副学長の謝辞で終了し た。



▲ 専修大学創立130年記念祝賀会

▲ 大学・高校・中学生のチアリーダー40 人によるジョイント演舞が華やかに



▲ 書道家・矢部澄翔さんのパフォーマンス



▲ 会場の外では専修大学の歴史をパネルで展示



▲ 出席した国際交流協定校の学長ら関係者を紹介



▲ 創立130年を笑顔で祝う



▲ 志茂田氏のサイン会も行われた



▲ 祝賀演奏をする専修大学フィルハーモニー管弦楽団

## 専大とともに 神田神保町探索

5



大和屋履物店

店内で左から小倉進さん、ヤス子さん、充子さん、中塚佳子さん

## げたは「挿げ」で決まる！ 粋な江戸模様の鼻緒も評判

主にしたこともあったが、8年ほど前に店舗をリニューアルした際、4代目となる長女の中塚佳子さんが「洋装にも合うし、健康的な良さが見直されている」と、再びげた中心の品ぞろえにした。

最近若い人たちに人気で、夏の花火大会には、「げたは専門店」と立ち寄る浴衣姿の若い女性や外国人客も多い。一本歯の高げたもよく出るとか。「合気道をする人、トランプを吹く人などが『腹筋をきたえ、足腰を強くする』って」と進さん。

江戸時代の風俗を描きだしたストーリーのある粋なデザインのオリジナル鼻緒が評判。江戸染色作家の次女・充子さんがデザインしたもので、伝統的履物が輝きを増している。

創業は1884(明治17)年。「創立130年の専大(1880年)とほとんどかわらないですよ。ほほ笑むのは、女将のヤス子さん。

「旧校舎時代の専大には、盆踊り大会、盛大な鳳祭などに神保町商店街こそって参加したものです。校舎がヒルになった直後は、公開講座が活発でよく聴きにきました。そうそう、正月の箱根駅伝は毎年、応援に。いつまでも私たちの『かなめ』のような存在であってほしいですね」

▲ 店舗は専大前交差点のすぐそばにある  
\*大和屋履物店 東京都千代田区神田神保町3-2-1 サンライツビル1階 ☎03(3266)1307



▲ 店舗は専大前交差点のすぐそばにある